



////////////////////////////////////

# 日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 93

May 2024

## 目 次

- 諸報告
  - 会長および評議員選挙公示 . . . . . 2
  - 2024 年度日本植物分類学会第 23 回大会（仙台）の報告・3
  - 2024 年度大会発表賞の報告 . . . . . 4
  - 2024 年度大会発表賞受賞者喜びの声 . . . . . 5
- お知らせ
  - 2024 年度第 1 回評議員会議事抄録 . . . . . 10
  - 2024 年度総会議事抄録 . . . . . 12
  - 2024 年度事業計画および予算 . . . . . 13
  - 2023 年に到着した交換図書一覧 . . . . . 13
  - 2024 年度日本植物分類学会野外研修会 . . . . . 14
  - 日本植物分類学会第 24 回大会（高知）のお知らせ . . . 15
- 会員消息 . . . . . 16

## 諸報告

### 会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 高野 温子

2024年12月末をもって、2023-2024年度の役員が任期満了となります。これにともない、次期会長および評議員の選挙を、学会会則12条および役員等の選出についての細則に従い、下記の通り行います。

この選挙で選出される会長および評議員には、学会ならびに植物分類学の将来を見据え、学会の運営や活動を推進いただくことになります。大切な選挙ですので、学会員の権利である一票をぜひ投じて頂きますよう、会員のみなさまにお願いいたします。投票の締め切りは2024年7月8日(月)です。

なお、会則第13条3で定められているように、役員には在任期間に関する制限があります。今回の選挙では、以下の方に各役員の被選挙権がありません。投票用紙に記名されても無効になりますのでご注意ください。

会長の被選挙権なし：村上哲明

評議員の被選挙権なし(五十音順)：海老原 淳，黒沢 高秀，高野 温子，仲田 崇志，布施 静香

また、今回役員等の選出についての細則の第2条にもとづき、評議員会から会長候補者として以下の2名の方が推薦されています。なお、評議員会推薦の会長候補者以外の被選挙権をもつ会員に投票されてもかまいません。

評議員会推薦の会長候補者(五十音順)：永益 英敏，藤井 伸二

#### 選挙実施細目

1. 投票締切：2024年7月8日(月)(当日消印のものまで有効)
2. 投票用紙：投票には、ニュースレター本号に同封されている会長選挙投票用紙(ブルー)と評議員選挙投票用紙(山吹)を使用してください。それ以外の用紙を用いた場合、無効となります。
3. 記入方法：ニュースレター本号の選挙人名簿をご覧になり、会長選挙投票用紙(ブルー)に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙(山吹)に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入してください。同姓あるいはよく似た名前の方がおられます。投票に当たっては選挙人名簿を参照の上、氏名を略さずに記入してください。規定数を超過して候補者名を書かれた場合は、その票自体が無効となります。また、会員以外の候補者名を書かれた場合は、会員以外の部分のみが無効となります。
4. 投票用紙の郵送：記入後、投票用紙を二つに折り、同封の返送用封筒に入れて郵送してください。封筒には、ご自分の住所と氏名を必ず記入してください。封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で、下記の投票用紙送付先まで郵送してください。その場合、切手代はご負担ください。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
5. 開票：2024年7月12日(金)に開票します。開票場所は兵庫県立人と自然の博物館を予定しています。会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、開票日時・場所の詳細を追って連絡いたしますので、選挙管理委員長までご連絡ください。
6. その他、不明な点などございましたら下記宛ご連絡ください。

投票用紙送付先および連絡先

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立人と自然の博物館

日本植物分類学会 選挙管理委員長 高野 温子

e-mail: takano@hitohaku.jp

## 2024 年度日本植物分類学会第 23 回大会（仙台）の報告

第 23 回大会会長 牧 雅之

第 23 回大会実行委員長 伊東 拓朗

## 1) 概要

日本植物分類学会第 23 回大会が 2024 年 3 月 8 日（金）から 12 日（火）の日程で、宮城県仙台市にて開催されました。完全対面形式での大会開催は 5 年ぶりとなりましたが、参加総数（シンポジウムのみの参加を除く）は 227 名で、内訳は一般 145 名（うち当日 27 名）、学生 82 名（同 5 名）と多くの方々にご参加いただきました。東北大学片平キャンパス片平さくらホールで行われた研究発表では、54 題の口頭発表（大会発表賞審査対象 27 題）と、69 題（同 31 題）のポスター発表がありました。同会場にて 3 月 9 日（金）に開催された公開シンポジウム「発見者が語る植物の新種とその面白さ」では、近年新種を記載された 6 名の方々に新種発見に至った経緯についてご講演いただき、約 190 名（うち非会員 74 名）の方々にご参加いただきました。日本の植物相は他国と比較してすでに十分に解明されており、未知の植物はほとんど存在しないと考えられることが多いようですが、身近な植物にもまだまだ知られざる事実が隠されている可能性があることを提示していただきました。ご講演いただいた皆様には改めて厚く御礼申し上げます。3 月 11 日（月）には、TKP ガーデンシティ仙台にて懇親会を開催し、参加者は、一般 84 名、学生 44 名でした。また、3 月 13 日（水）には東北大学植物標本庫の公開を行い、8 名（1 名欠席）にご参加いただきました。



大盛況の公開シンポジウム会場の様子

## 2) 収支

第 23 回大会の収支は、以下の通りです。大会および公開シンポジウムについては、東北大学学術資源研究公開センターに共催を認めていただきましたので、会場であるさくらホールの利用料を安価に借り受けることができました。また、休憩時の茶菓については、仙台市の「おもてなし予算」の助成を受けました。今回、初めての試みとして、寄附金を募りましたが、32 名の皆さまから、合計 90000 円のご支援をいただき、ミキサーをはじめさまざまな用途に使用させていただきました。さらに、ミキサーでは、東北大学大学院生命科学研究科 OB の伝手で、株式会社キリンビール様から飲み物のご提供をいただきました。ご支援をいただいた皆さまには、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

収支		支出	
前年度繰越金	360,044	会場費	130,560
大会補助費	100,000	プログラム要旨集名札印刷費	149,960
大会参加費	917,000	要旨集参加費領収書輸送費	9,070
懇親会参加費	862,000	公開講演会要旨集印刷費	73,400
要旨集代	29,000	スタッフ交通費	1,800
寄付	90,000	アルバイト謝金	554,000
仙台市補助（茶菓限定）	99,492	文具・通信・本部経費等	132,562
		送金手数料	757
		懇親会費	854,574
		茶菓費	189,841
		次年度繰越金	361,012
収支合計	2,457,536	支出合計	2,457,536

## 3) 大会組織

第23回大会実行委員会は、東北大学学術資源研究公開センター（植物園）・大学院生命科学研究所植物進化多様性分野のスタッフ（牧雅之、伊東拓朗、堀江佐知子）、東北大学大学院農学研究科の高橋大樹、石巻専修大学理工学部の根本智行で組織しました。会場設営にあたっては東北大学植物園の技術職員の皆様に、大会準備および期間中の対応は東北大学大学院生命科学研究所および農学研究科の学生の皆様に多大なるお力添えいただきました。大会のロゴにつきましては、東京都板橋区の杉山佳代様にご作成をいただきました。

## 4) 課題等

大会運営については、例年最終日に行われていた公開シンポジウムを大会序盤に開催したことや、ポスター発表後の会場でミキサーを実施したこと、従来よりも半日会期を延長したこと等、コロナ禍前の大会開催とは異なるさまざまな新しい試みを行いました。これらの試みで良かった点としては、全講演者希望通りの発表形式を受け入れることができ、全日程で余裕を持ったスケジューリングができたことが挙げられます。また、久しぶりの対面開催ということもあって、初日のミキサーは盛会で、同時に行われたポスター発表延長戦での議論も盛り上がりおりました。一方で、全日参加すると少々疲弊してしまう等の声もありました。これらの試みについては色々と良い面も悪い面もあるかと思いますが、次回大会以降の運営の際に、一つの参考として議論していただければと思います。

大会時以外の事項として、会期中の宿泊施設の確保をより早期に行うように周知する必要があったように思いました。特に地方では宿泊施設の絶対数が減少していることに加え、大きなイベントが大会期間と被ってしまう場合には今後も宿泊施設の確保が困難になると予想されます。今回、運営側からメーリングリストで急遽アナウンス致しましたが、その時点で既に宿の確保に苦労した方も多かったように思われました。ご不便をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。次回大会以降、参加者の皆様にはこれまで以上に早期の宿泊施設の確保にご留意いただければ幸いです。

## 5) おわりに

大会準備ならびに会期中には、さまざまな問題や至らぬ点があったかと思えます。ご参加の皆様にはご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。それにもかかわらず、大会が盛会に終わりましたのは、ひとえに参加していただいた皆様のおかげと思っています。末筆になりましたが、実行委員会一同、御礼を申し上げます。

## 2024年度日本植物分類学会大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 志賀隆

日本植物分類学会第23回大会において優れた研究発表を行った若手研究者に授与する大会発表賞は、以下の7名に決まりました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

## 口頭発表賞（大会プログラム掲載順）

A01 佐々木晴大（福島大・院・理工）

「ヒメノヤガラの分類学的再検討と日本新産種 *Chamaegastrodia inverta* の発見」

A13 米岡克啓（都立大・牧野）

「日本産ホウビシダ属（チャセンシダ科）の配偶体に見られる形態・機能・生活様式の多様化」

A15 池田駿（千葉大・院・園芸）

「中部日本の上部中新統より産する化石属 *Protosequoia* の分類の再検討」

A19 杉山由佳（東北大・理）

「ユキノシタ科ネコノメソウ属イワボタン列における分化プロセスの検証」

## ポスター発表賞（大会プログラム掲載順）

PA16 児玉円（お茶大・理）

「外来種オニハマダイコンの日本への侵入の歴史」

PA22 池田有希菜（東北大・院・生命）

「イヌビワ-イヌビワコバチ-イヌビワオナガコバチ共生系における比較系統地理学的解析」

PA29 山口万里花 (都立大・牧野)

「ネコノメソウ属イワボタン列の送粉者クチナガハバチ属における口吻長の地理的変異」

エントリー資格者および審査方法は例年通り、パーマメント・ポストに就いていない若手研究者の学会員で、筆頭発表者かつ演者であり、申込時に大会発表賞へのエントリーを希望した人を対象にしています。2024年度大会発表賞には合計58題(口頭発表27題、ポスター発表31題)のエントリーがありました。大会発表賞選考委員会は会長、評議員、昨年度の発表賞受賞者で組織され、12名の選考委員が各発表について「研究内容(5点)」と「プレゼンテーションのうまさ(ポスター発表はポスターそのものの視認性の良さとわかりやすさ)(3点)」の2つの指標について合計8点満点で評価を行いました。この評点の平均点をもとに委員の合議によって受賞者を決定し、今大会では計7題(口頭発表賞4題・ポスター発表賞3題)が大会発表賞に選ばれました。

大会発表賞の授与は2006年度から始まり、今回で17回目を迎えました。これまで毎年3~5題の受賞がありましたが、大会発表賞選考委員会では受賞者数の適正数について審査に先立って議論を行いました。議論の結果、他の学会や研究会における類似の賞の受賞者数も確認して、改めて受賞件数を「エントリー数に対して1割程度」としました。厳密に1割であれば今大会の受賞件数は6件になりますが、甲乙つけがたい優れた研究発表が多く、最終的な受賞数は7件になりました。

今回は受賞数が多かったこともあり、授賞式において時間を取って各発表に対する講評を述べることができませんでした。授賞式でもお話ししたように、ニュースレターの誌面を借りて各発表の講評を短く述べます。まずは口頭発表で選ばれた4題についてです。佐々木さんの発表は系統・形態・標本を丁寧に検討し、最終的に分類学的な取扱いまで提案した点、米岡さんは徹底した採集により、厚みのあるデータで議論を行っていた点が評価されました。また、池田さんは判断が難しい化石の分類に対して、丁寧な観察を積み上げ、明確な根拠で変更を促そうとした点、杉山さんは遺伝解析、生態ニッチモデリングを用いて分化要因だけでなく、種の維持要因までの考察がなされていた点が評価されました。

次にポスター発表で選ばれた3題についてです。児玉さんは外来植物に生態ニッチモデリングを適用し、原産地よりも広い環境に生育していることなど、興味深い結果を明らかにしました。また、池田さんは絶対送粉共生系の植物と昆虫の両方の種内の地理的遺伝構造を比較している点、山口さんは絶対共生系の昆虫の口吻形態と植物種との関係について、明確な結果が示されており、クチナガハバチ属とイワボタン列の種分化・多様化機構の解明について今後の研究に期待できる点が評価されました。ポスター発表は、発表者の説明が無くとも研究内容を理解できるポスターになっているのかも評価のポイントとなりました。

改めて受賞者の方々にお祝いを申し上げます。また、受賞されなかった方々も自分の研究に自信を持って今後も研究を推し進めていかれることを期待します。選考には、委員はもとより学会幹事や大会準備委員会の皆様に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

## 受賞者喜びの声

口頭発表賞(大会プログラム掲載順)

A01 佐々木晴大 ヒメノヤガラの分類学的再検討と日本新産種 *Chamaegastrodia inverta* の発見

福島大学の佐々木晴大です。この度は研究室の大先輩である首藤光太郎さんや、地元の大家である薄葉満さんの学会賞と同時期に発表賞をいただいたこと、光栄に思います。

ヒメノヤガラは、色彩や唇弁の形態に変異があることが知られていました。そこで、唇弁の形態、DNA、色彩解析により分類学的実態の解明を目指しました。調査は今年の7、8月に宮城から鹿児島まで22集団を調査しました。花期が短く、全国でほぼ同時期に地上に出るので、7月はハードスケジュールでした。調査では、現地の研究者の方と2人きりで調査することもあり、不安もありましたが、皆さんとても優しく本当に楽しかったです。夜は地元の方々と朝方までお酒を飲み、二日酔いで山を登ったこともありました。調査から帰るとすぐに共同研究者から尻を叩かれながら、検討を重ねながら解析や解剖を行いました。その結果、日本産ヒメノヤガラにはヒメノヤガラと日本新産種の2種が存在することが分かり、後者に和名「オトメヤガラ」を提唱しました。本研究を2年もたたずに形にできたのは、共同研究者をはじめ、多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。



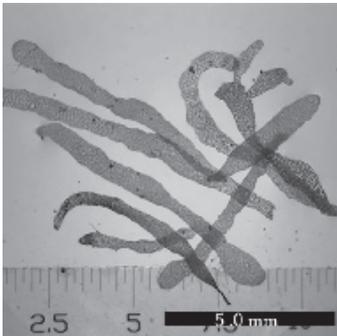
東京大学千歳演習林で調査を行った時の写真  
右が佐々木，左は共同研究者の山下さん



研究対象のヒメノヤガラ（左）と  
日本新産種オトメヤガラ（右）

### A13 米岡克啓 日本産ホウビシダ属（チャセンシダ科）の配偶体に見られる形態・機能・生活様式の多様化

東京都立大学・牧野標本館の米岡克啓です。この度は私たちの研究を口頭発表賞に選んでくださり、誠にありがとうございました。日本産ホウビシダ属の配偶体生活史を明らかにするために、日本の亜熱帯・暖温帯地域の独立配偶体フローラを徹底的に調べ上げた点が特に高い評価を受けて、多くの研究者から労いの言葉をいただきました。シダ植物の配偶体は非常に小さいため、今回の発表で用いた1,187点の個体を集めて解析し、データセットを構築するまでに3年以上の時間を投じてきました。この努力量が評価されたことは素直に嬉しかったです。また同業のシダ研究者から「これまで一括りにされていた非心臓形配偶体（ストラップ形）の中にも形態や機能的な多様性がありそうだと議論した点が新しく良かった」と評価され、発表が終わった後にはその適応的意義も含めて沢山質問いただきました。シダ植物の多様性の全容を解明するために、引き続き配偶体世代の多様性に焦点を当て、多角的に研究を展開できるよう頑張ります。最後に、本研究の遂行のために多大な協力をしてくださった琉球大学の内貴章先生と鹿児島大学の山本武能博士をはじめ、ここに名前を挙げることのできない多くの方々に感謝お礼申し上げます。



左からナンゴクホウビシダの配偶体，琉球大学のグループと共同で行った西表島調査の様子，荷物の内訳

### A15 池田駿 中部日本の上部中新統より産する化石属 *Protosequoia* の分類の再検討

千葉大学の池田駿です。この度は口頭発表賞を頂き、誠にありがとうございます。

日本の新生代から産出する植物化石は、メタセコイア属を命名された三木茂博士を中心に分類学的な検討がされてきましたが、形態変異を含めた現生種との詳しい比較はあまりされてこなかった背景があります。本研究では、葉の表皮形態や球果鱗片の維管束形態を利用した分類学的再検討を通して、中部日本の後期中新世の地層から産出するヒノキ科のプロトセコイア属とセコイア属化石種が同種であり、しかもセコイア属の未記載種であることを突き止めることができました。本化石種は現生種のセコイアと比較すると、枝条や葉が1/2ほどの大きさしかなく、鱗片葉を多産して密に分枝させることが特筆されます。しかし葉形に関しては、セコイアでも樹高が高くなるにつれて、80mほどか

ら鱗片葉に制限されることが判明していて、今後はこの変異との関連を解明していく必要があると考えています。最後に、本研究の遂行にあたり、多くの方にお世話になりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。私の発表を通じて、現代の植物だけでなく、古植物にも興味を持っていただけたなら、大変光栄です。



セコイア樹高ごとの葉 (カリフォルニア産)



セコイア  
(筑波実験  
植物園植栽)

A19 杉山由佳 ユキノシタ科ネコノメソウ属イワボタン列における分化プロセスの検証

東北大学の杉山由佳です。この度は口頭発表賞をいただき、誠にありがとうございます。  
ネコノメソウ属は時期による形態変化が著しく、微細な形態的差異を分類形質とするために同定が困難な分類群として知られてきました。本研究では、日本産ネコノメソウ属全種を対象に、葉緑体全ゲノムおよび核シングルコピー遺伝子に基づく高解像度の系統樹を構築しました。さらにイワボタン列については、ゲノムワイド SNPs を用いた集団動態推定および生態ニッチモデリング等の解析を行うことで、日本海および太平洋側に分布する種群それぞれにおいて、最終氷期のレフュージアにより複数の集団に分化し、その後、気候の違いや低い種子散布能力によって各集団の分化が維持されていることが示唆されました。しかし、まだまだネコノメソウ属にはたくさん謎が残されていますので、今後もネコノメソウ属に関する研究がより盛んに行われることを心より願っております。

本研究を遂行するにあたり、非常に多くの方々からサンプルの提供および実験や解析に対するご助言をいただきました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



ニッコウネコノメ



イワボタンネコノメソウ



調査の様子

## PA16 児玉円 外来種オニハマダイコンの日本への侵入の歴史

お茶の水女子大学の児玉円です。この度はポスター発表賞をいただき、誠にありがとうございます。

私は絶滅危惧種の保全と、外来種の急速な分布拡大メカニズムという2つのテーマに興味をもちます。今回は後者のテーマで、日本に侵入してからわずか40年で広く分布を拡大したオニハマダイコンという北米原産の海浜植物に関する研究を発表しました。

日本全国から採集したサンプルの葉緑体ゲノムSNPs情報から、日本には少なくとも2つのタイプの葉緑体ゲノムが存在することが明らかになりました。この2タイプの分布情報より、日本へは複数回の侵入が起こった可能性が高いこと、原産地よりも生育する環境ニッチが拡大していることなどが示唆されました。しかし、葉緑体ゲノムのSNPsだけでは解像度が低いため、今後はより解像度の高い遺伝解析手法に挑戦し、日本でオニハマダイコンがどのように分布を拡大したのかを明らかにしていきたいと考えています。

本研究を行うにあたり、多くの方々からサンプルのご提供や解析においてご助力いただきました。また、大会期間中にも多くの方からご助言をいただき、新たな気づきや学びをたくさん得ることができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。



オニハマダイコン



村上会長と記念撮影

## PA22 池田有希菜 イヌビワ-イヌビワコバチ-イヌビワオナガコバチ共生系における比較系統地理学的解析

東北大学の池田有希菜です。この度はポスター発表賞をいただき、大変光栄に思っております。

本研究では、共生や寄生という生物間の関係性の違いが互いの分布に与える影響を評価するため、イヌビワ、イヌビワコバチ（以下コバチ）、イヌビワオナガコバチ（以下オナガ）の3種それぞれにおいて遺伝構造及び分布変遷の推定を行い、それらの種間における一致度の比較を行いました。結果、絶対送粉共生の関係にあるイヌビワとコバチは互いに厳密に分布域を制限し合うのに対し、一方向の寄生関係にあるコバチとオナガでは、寄生者の分布拡大は宿主の分布パターンにそれほど影響されないことが示唆されました。対象種の分散能力の違いや宿主シフトの可能性など詳細に考慮すべき点はありますが、本研究によって一定の成果を示すことができたと考えています。

東北大学植物園の皆さまをはじめ多くの方々の多大なお力添えがあり本研究を行うことができました。また発表時には皆さまより様々な角度からのご意見をいただき、非常に楽しく刺激になりました。最後に、大会運営にご尽力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



イヌビワ



調査の様子

#### A29 山口万里花 ネコノメソウ属イワボタン列の送粉者クチナガハバチ属における口吻長の地理的変異

東京都立大学牧野標本館の山口万里花です（現所属：東京大学／国立科学博物館筑波実験植物園）。この度はポスター発表賞をいただき、ありがとうございます。多くの方が見に来てくださり、有益なコメントもいただくことができ、大変楽しい時間を過ごすことができました。

私はネコノメソウ属イワボタン列の花とクチナガハバチ属の昆虫が、種子食者が送粉を担う相利共生関係を構築していることを発見しました。今回の発表では、長い口吻をもつクチナガハバチとヒダククチナガハバチの口吻長には地域変異があり、それぞれ異なるホストを利用していたことを示しました。イワボタン列の多様な花形態は、この送粉者との相互作用によって説明できるかもしれません。

私は、2024年度から東京大学の博士課程へ進学し、筑波実験植物園の奥山研でイワボタン列ークチナガハバチ属共生系の研究を続けていきます。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

本研究を遂行するにあたり、多くの方々に助言、協力をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



サンインネコノメ



ヒダククチナガハバチ



調査の様子



発表賞授賞式の様子

# お知らせ

## 2024 年度 第 1 回評議員会 議事抄録

庶務幹事 西野貴子

会場：東北大学 川平キャンパス 東北大学植物園 本館講義室

日時：2024 年 3 月 8 日（金）16 時～19 時

参加者

評議員：12 名のうち出席 12 名

現地出席：海老原 淳，片桐 知之，黒沢 高秀，志賀 隆，副島 顕子，高野 温子，西田 佐知子，藤井 伸二，  
布施 静香，米倉 浩司

オンライン出席：仲田 崇志（議決時にオンライン状況が不通になった場合には会長への委任を優先）

委任状出席：細矢 剛（議長に委任）

幹事会・委員会委員長：（ ）内は役職

現地出席 [13 名]：村上 哲明（会長，ABS 問題対応委員会委員長），西野 貴子（庶務），國府方 吾郎（会計），  
李 忠建（図書），大槻 達郎（ニュースレター），布施 静香（編集委員長・英文誌編集），厚井 聡（和文誌編集長），  
黒沢 高秀（日本分類学会連合，研究・普及推進委員会委員長），鈴木 武（野外研修会），藤井 伸二（絶滅  
危惧植物専門第一委員会委員長），大西 亘（植物データベース専門委員会委員長），梶田 忠（学会賞選考  
委員長），池田 博（国際シンポジウム準備委員会委員長）

オンライン出席 [2 名]：田中 伸幸（標本問題対応委員会委員長），佐藤 博俊（ホームページ）

欠席 [3 名]：高山 浩司（講演会），朝川 毅守（自然史学会連合），細矢 剛（絶滅危惧植物専門第二委員  
会委員長），

1. 評議員会開催にあたり，村上哲明会長から挨拶があった。
2. 庶務幹事により定足数が確認された。会長，評議員 13 名出席，欠席なしにより評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として西田佐知子氏，議事録署名人として議長に加え，志賀隆氏，藤井伸二氏が選出された。

### 4. 報告事項

- 4.1. 自然史学会連合関連報告 2023 年度活動報告および 2024 年度活動計画の説明がなされた。
- 4.2. 日本分類学会連合報告 2023 年度活動報告および 2024 年度活動計画の説明がなされた。
- 4.3. 各種委員会に関する報告がなされた。

(1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『植物地理・分類研究』の 2023 年度編集状況，および 2024 年度出版計画について説明。

(2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過の説明。

(3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学会論文賞の選考経過の説明。

(4) 植物データベース専門委員会 国内の植物分類学系学術誌の情報ならびに，植物分類学関連の web データベースの情報整理を進め，これまでに整理したそれらの情報の公開準備を行った。

(5) 絶滅危惧植物専門第一委員会 環境省第 5 次レッドリスト改訂に向け，判定作業を行うとともに原稿作成を進めている。

(6) 絶滅危惧植物専門第二委員会 環境省第 5 次レッドリスト改訂に向け，オンライン会合を開催し，蘚苔類・藻類・地衣類・菌類の各分科会の代表者により，進行状況について情報交換を行い，順調に進行中であることを確認した。

(7) ABS 問題対応委員会 委員長が分担者となり，文科省から予算をもらって実施している ABS 対応支援事業を通じて本学会員の ABS 対応への支援を実施した。

(8) 国際シンポジウム準備委員会 東アジア国際植物分類学シンポジウム (10th East Asian Plant Diversity and Conservation Symposium 2023) を開催し，詳細はニュースレター 92 号で報告した。

- (9) 標本問題対応委員会 農林水産省からの貨物による植物の輸入に対する厳格化措置について会員へ ML を通じて情報提供を行った。また、農林水産省植物防疫課と協議を行い、海外の博物館、大学などから送付される学術標本の場合は、それが輸入禁止品であっても廃棄措置前に確認連絡をしていただくよう特段の配慮を要請し、各地の植物防疫所への周知を要請した。
- (10) 研究・普及推進委員会 植生学会第 28 回大会の大阪市立自然史博物館植物標本庫見学ツアーに協力した。各委員が命名法やタイプに関わる研究相談や問い合わせへの対応、学校標本の状況調査・収集・研究、地方の植物研究の支援や地域の研究者との連携などに取り組んだ。各委員が行っている活動を整理し、委員会全体としての活動を標本、標本レスキュー、図書、命名・タイプに分け、それぞれにチームを作り対応することにし、準備を行っている。
- 4.4. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況、バックナンバーの販売状況の説明がなされた。
- 4.5. ニュースレターに関する報告 2023 年度実施報告、および 2024 年度準備状況の説明がなされた。
- 4.6. ホームページ・メールニュース関連報告 学会公式 HP およびメールニュースの運用状況の説明がなされた。
- 4.7. 会務報告 2023 年度の事業報告がなされた。
- 4.8. 会計報告 2023 年度の会員状況、会費滞納者の状況の説明がなされた。
- 4.9. その他
- (1) 講演会報告 2023 年度の講演会の実施について報告がなされた。
- (2) 野外研修会について 2023 年実施報告、および、2024 年度準備状況について説明がなされた。
5. 審議事項
- 5.1. 2023 年度事業報告（案）について  
西野庶務幹事より 2023 年度事業報告（案）が提案され、承認された。
- 5.2. 2023 年度決算報告（案）について  
國府方会計幹事より 2023 年度決算報告（案）が提案され、承認された。
- 5.3. 2024 年度事業計画（案）について  
西野庶務幹事より 2024 年度事業計画（案）が提案され、承認された。
- 5.4. 2024 年度予算（案）について  
國府方会計幹事から 2024 年度予算（案）が提案され、質疑の後、承認された。
- 5.5. 次期会長、評議員の選挙について  
選挙管理委員会委員長と委員が会長により指名されたことが報告された。さらに会長の評議員会推薦を行うことを決定し、2 回の投票の結果、永益英敏氏、藤井伸二氏（五十音順）の 2 名の推薦が決まった。
- 5.6. 名誉会員の推薦について  
本年度は新規の推薦を見送ることが報告され、これまでと同様に自薦・他薦を問わず候補者を広く募ることが確認された。
- 5.7. 除名について  
再三の督促にもかかわらず連絡もない長期滞納の会員 1 名について、会則第 10 条にもとづく一連の除名執行が確認された。
- 5.8. 『特別会計についての細則』における条項追加の改定案について  
西野庶務幹事より『特別会計についての細則』についての条項追加の改定案が提案され、質疑の後、承認された。改訂案については以下のとおりであり、第三号議案として総会にて提議することに異議はなかった。

#### 【提案理由と改訂案】

2011 年の東日本大震災の津波や、近くは 2020 年 7 月の熊本豪雨によって水損した植物標本のレスキューが行われてきたが、本会の現行での「特別会計についての細則」では、このような時間との勝負となる緊急事態に対応した支出をすることができず、将来的には問題となることが予想される。

そこで、上のような重大な緊急事態に今後は対応できるよう、「特別会計についての細則」について、以下のような条項を追加する改定を提案する。

第4条 会長は、緊急に支出を要する際には、評議員会の議決を経て、特別会計から臨時に支出をすることができる。臨時に支出を行った際には総会に報告をしなければならない。

## 6. その他

### 6.1. 総会議事について

西野庶務幹事より、総会議事について議事次第の提案がなされ、上記の『特別会計についての細則』についての条項追加の改定案を総会の審議に含めることを確認した。

### 6.2. 第24回、第25回大会開催地について

村上会長より、第24回、および第25回大会の開催地が決定したことが報告された。

### 6.3. 発表賞について、授与人数や重複受賞の制限などの今後の方向性について議論が行われた。

## 2024年度総会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

会場：東北大学 片平キャンパス 片平さくらホール

日時：2024年3月11日（月）13時から14時まで

1. 総会に先立ち、村上哲明 会長、ならびに伊東拓朗 仙台大会実行委員長から挨拶があった。

2. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。

3. 西田佐知子会員が総会議長に選出された。

## 4. 報告事項

### 4.1. 会務報告

西野庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるため、議案審議の際に報告するとの説明があった。

### 4.2. 会員数について

國府方会計幹事より、会員数の説明がなされた。

### 4.3. 各委員会からの報告

絶滅危惧植物専門第一委員会、及び同第二委員会、植物データベース専門委員会、学会賞選考委員会、論文賞選考委員会、大会賞選考委員会、ABS問題対応委員会、国際シンポジウム準備委員会、標本問題対応委員会、研究・普及推進委員会の各委員長、またはその代理から活動報告がなされた。

## 5. 審議事項

審議に先立って、会場での総会出席者数の確認を行い、庶務幹事より総会出席者が85名（のちに最大98名）であることが報告された。

### 5.1. 【第一号議案】2023年度事業報告、ならびに2023年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が、西野庶務幹事と國府方会計幹事によりそれぞれ説明され、大村嘉人と池谷祐幸両監事により、会務および会計が適切であるとの監査結果が提示された。審議の結果、賛成98票、反対票0票、白票0票で出席者の賛成多数をもって承認された。

### 5.2. 【第二号議案】2024年度事業計画、ならびに2024年度予算案

西野庶務幹事と國府方会計幹事より本年度の事業計画と予算案の説明があった（ニュースレター92号掲載のとおり）。審議の結果、賛成97票、反対0票、白票0票の出席者の賛成多数をもって承認された。

### 5.3. 【第三号議案】『特別会計についての細則』についての条項追加の改定案

西野庶務幹事より改定案の提案理由の説明があり、改定案が示された（ニュースレター今号11ページの2024年度第1回評議員会議事抄録の「5.8.『特別会計についての細則』における条項追加の改定案について」のとおり）。永益英敏会員、池谷祐幸会員、藤井伸二会員より異議が出され、総会の閉会時間となり議決せずに審議保留となった。

## 6. その他

### 6.1. 第24回、および第25回大会開催地について

次の 2025 年の第 24 回大会について、3 月 8、9 日の土日を含める日程で高知大学朝倉キャンパスにて開催されることが村上会長より告知された。さらに、第 25 回大会は 2026 年 3 月に、熊本にて開催することも案内された。

#### 6.2. 次期会長、および評議員の選挙について

西野庶務幹事より、次期会長と評議員の選挙について、ニュースレター今号にて公示されること、および会長候補について評議員推薦がなされることが告知された。

#### 6.3. 名誉会員の推薦について

西野庶務幹事より、2023 年度に引き続き 2024 年度も推薦を見送ること、50 年以上在籍会員の情報を常時募ることが案内された。

#### 6.4. 野外研修会について

鈴木担当委員より、本年 9 月 30 日（月）につくば市周辺で野外研修会を開催する計画が進んでいることが報告された。

## 2024 年度事業計画および予算

庶務幹事 西野 貴子

ニュースレター 92 号（前号）にて掲載した 2024 年度事業計画案、および予算案は、総会ににおいて修正はなく、そのまま承認されました。変更がないため本号での再掲は割愛いたします。

## 2023 年に到着した交換図書一覧

図書幹事 李 忠建

Aliso 41(1-2)  
Annals of the Missouri Botanical Garden 107  
Biodiversity and Ecology 7  
Bulletin mensuel de la Société d'Histoire Naturelle de Toulouse 158  
Candollea 77(2), 78(1)  
Conservatoire et Jardin botaniques Geneve Rapport Annuel rapport annuel 2022,  
Fritschiana 99, 99, 100  
Gardenwise 60, 61  
Kew Bulletin 77(4), 78(1), 78(2), 78(3), 78(4)  
Korean Journal of Plant Taxonomy 52(4), 53(1), 53(2), 53(3)  
Plant Diversity (Plant Diversity and Resources) 44(5), 44(6), 45(1), 45(2), 45(3), 45(4)  
Plant ecology & diversity 15(5-6), 15(3-4)  
Revue Valdotaïne D'histoire Naturelle 76  
Senckenberg-Reihe 54  
Smithonian Contributions to botany 112, 116, 117, 115  
Thai Forest Bulletin 50(2)  
THAISZIA 32(1), 32(2)  
the Bulletin of the National Tropical Botanical Garden 39(2)  
The Gardens' Bulletin Singapore 74(2), 75(1)  
Willdenowia 52(3), 53(1,2)  
生命世界 (life world) 2021(01)-2022(12) 計 24 卷  
大自然 228(6), 229(1), 230, 231, 232  
台湾大学実験林報告 37(2)

國立臺灣博物館學刊	75(4), 75(5), 76(1), 76(1), 76(2)
大阪市立自然史博物館研究報告	76
大阪市立自然史博物館収蔵資料目録	53
自然史研究(大阪自然史博)	4(6)
国立科学博物館研究報告	48(3), 48(4), 49(1), 49(2)
国立科学博物館モノグラフ	33
徳島県立博物館研究報告	33
植物学雑誌	136(1), 136(2), 136(3), 136(4), 136(5), 136(6)
植物研究雑誌	98(1), 98(2), 98(3), 98(4), 98(5), 98(6)
蘚苔類研究	12(11), 12(12), 12(11), 13(1)
岐阜県植物研究会誌	37
近畿植物同好会々誌	46
近畿植物同好会会報	137
兵庫植物誌研究会会報	132
東北植物研究	23
奈良植物研究	44

## 2024 年度日本植物分類学会 野外研修会のお知らせ

野外研修会担当 鈴木 武

ミュージアムパーク茨城県自然博物館の協力で、9月30日(月)に筑波山周辺での自然観察、翌10月1日(火)は希望者を対象にミュージアムパーク茨城県自然博物館でのシダ植物に関する企画展などの見学を行います。申し込み方法、詳細な日程は追ってメーリングリストおよび次号ニュースレターでお知らせします。

### 【9月30日】筑波山周辺

筑波山周辺で、採集可能な観察地を選定しています。つくばエクスプレス(TX)「つくば駅」集合。小型バスをチャーターし、9時出発。  
集合：8時30分～8時50分、つくば駅の集合場所は、参加者に連絡いたします。  
詳細はMLおよび次回ニュースレター(8月末発行予定)でお知らせします。

### 【10月1日】ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/> (希望者のみ)

9時30分に博物館入口に集合。開催中のシダ植物に関する企画展、収蔵庫などを案内し、その後自由に館内および野外施設を見学していただきます。

### 【宿泊】必要な方は参加者でご予約下さい。

9月29日に宿泊の際はつくばエクスプレスつくば駅周辺、  
9月30日に宿泊の際は東武アーバンパークライン愛宕駅周辺が便利です。

### 【参加費】4,000円程度 9月30日集合時徴収

内訳：バス代(有料道路通行料込み)、保険代

- ・ご自宅からつくば駅までの往復交通費、宿泊代、オプションのミュージアムパーク茨城県自然博物館までの交通費は個人負担です。
- ・ミュージアムパーク茨城県自然博物館のみ希望の方はご相談ください。

【募集人数】20名程度

【問い合わせ・申込み先】鈴木亮輔，伊藤彩乃（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

メール：suzuki.riyousuke@mail.ibk.ed.jp

郵便：〒306-0622 茨城県坂東市大崎700

TEL: 0297-38-0925（直通）FAX: 0297-38-1999

お申し込みの際に緊急時にご連絡できるお電話番号をお知らせください。

- ・ご連絡いただいてから3日程度以内に受付の返信をいたします（郵便の場合にはお電話を差し上げます）。万が一、返信等がない場合には、恐れ入りますが再度ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

【その他】

- ・前日（9月29日）の夜、18時からつくば駅周辺で、自由参加による懇親会を計画しています。観察会申し込み時に併せてお申し込み下さい。詳細は人数確定後にご連絡いたします。

## 日本植物分類学会第24回大会（高知）のお知らせ

第24回大会会長 川原信夫

日本植物分類学会第24回大会を下記の通り開催いたします。大会および参加申し込みの詳細は、大会ホームページおよび2024年11月号のニュースレターでお知らせいたします。

【会場】

高知大学朝倉キャンパス 〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号

【日程】

- 2025年3月7日（金）各種委員会・評議委員会
- 3月8日（土）研究発表・公開シンポジウム
- 3月9日（日）研究発表・総会・受賞講演・懇親会
- 3月10日（月）研究発表

【ホームページ】

現在作成中。アクセス可能になり次第、日本植物分類学会のホームページ等にてご連絡いたします。

【問い合わせ先】

日本植物分類学会第24回大会（高知）大会実行委員長 藤川和美

〒781-8125 高知県高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園

E-mail: saussure@makino.or.jp

